

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870400425
法人名	有限会社ファミリエ
事業所名	グループホーム橙園
所在地	愛媛県八幡浜市保内町宮内 1 - 5 8 3 - 1
自己評価作成日	平成28年12月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>橙園の介護理念に添った介護を職員全員が取り組めるよう頑張っている。</p> <p>地域密着型の事業所として、地域の行事(文化祭、バザー、お花見、秋祭り等)に参加したり、近くの神社の行事(御神楽、どんど焼き等)に参加したり、保育園や小・中学校生との交流などを行っている。ボランティアさんとの交流も盛んで、皆さんで支えてくださっている。</p> <p>ご家族の思いに応えられるよう努力している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は、ゆっくりとわかりやすく、利用者は何をするのか伝えながら支援している。業務カンファレンス時には、理念にもある「尊厳を守る言葉かけを行う」ことを皆で申し合わせている。</p> <p>落ち着かないような様子の中には、畑に野菜を採りに行く等、外に出る機会を作ったり、家族と電話で話したりできるよう支援している。</p> <p>ユニット間で日々協力し合って取り組んでいる。職員それぞれの家庭の状況に合わせた働き方ができるように、職員同士が業務等も協力し合っている。</p> <p>職員は、食べる楽しみについての外部研修を受講して、ミキサー食の利用者への支援について、目からも楽しめるよう取り組んでいる。又、食前には口腔体操を行っている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホーム橙園

(ユニット名)

水仙

記入者(管理者)

氏名

山下 直子

評価完了日

H28年 12月 20日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 業務カンファレンス、ケアカンファレンスで「理念」について勉強している。職員全員がその意味を理解して覚えることで、いつも心に留めて利用者に対して同じ方向に進んでいけるよう努力している。 (外部評価) 「心身の障害があっても私らしく、あなたらしく、豊かに。人としての尊厳を守る介護」と理念をつくり、玄関、各ユニットの居間に掲示している。勉強会時には、管理者(法人代表者)が「介護する人される人ではなく、あなたも私も一緒の人である」「ここが利用者の居場所になるように」と話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事があると、必ず案内をもらっている。近くの神社には初詣で、御神楽、どんど焼き、輪抜け等に行っている。小学校へは運動会、学芸会など。保育園の園児達がお祭りごっこで訪問。文化祭に作品を出品したり、公民館バザーに行ったり、地域の避難訓練に参加したり、日常的に交流している。 (外部評価) 自治会に加入して、地域行事には積極的に参加している。利用者が一人で出かけて行った際、地域の方にも搜索の協力を依頼したことがあり、そのあとは、これまで以上に事業所に関心を持ってくれるようになっていく。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 4月の運営推進会議は一般公開して構成員の方以外に地域の方、ボランティアの方、利用者ご家族皆さんにご案内をして、多数のご参加あり。認知症および認知症介護についての取組み、活動などをお話しし、ご意見をいただいた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			(外部評価)	
				会議は、併設の小規模多機能事業所と合同で行っている。家族には、3名の方に参加を依頼している。年1回公開会議を行っている。「日本GH協会」全国大会で事例発表して入賞したことを報告したり、評価についても説明している。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			(外部評価)	
				市社協から「市民後見人講座」での認知症についての講義依頼があり、協力している。介護相談員との交流会に出席している。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			(外部評価)	
				利用者が一人で出かける際には、職員が後ろからそっと付いて行き対応している。落ち着かないような様子の時には、畑に野菜を採りに行く等、外に出る機会を作ったり、家族と電話で話したりできるよう支援している。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 年に何度かは必ず虐待についての勉強会を行っている。外部に研修に行った職員が報告会および勉強会をして、職員全員に報告書(感想)を提出してもらっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 市の権利擁護の係よりお話をいただき勉強会を行った。園長より業務カンファレンス時の勉強会で話があり、職員は自分が学んだことを報告書として提出した。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時、利用者、家族に時間をかけて丁寧に納得していただけるよう説明している。不明な点、疑問点など、十分理解していただけるまで説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議に利用者家族も参加されており、そこで意見をいただくこともある。意見、要望などはサービス計画書(1)作成時以外でも、面会時、電話、毎月のお便り等でもお聞きし、それぞれ反映できるよう努力している。 (外部評価) 家族には毎月、計画作成担当者が、利用者個々に写真にコメントを付け、健康状態や作業活動、次月の行事予定表等を用紙にまとめ送付している。2ヶ月に1度、隣接小規模多機能事業所と合同で「橙園便り」を発行しており、法人全体の活動を報告している。	外部評価に際しての家族アンケート集計表等も参考にして、これからの取り組みを工夫してみしてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>第1回運営推進会議(4月)は職員全員の参加とし、その場で運営状況など詳しい説明を聞いている。業務カンファレンスでも運営に関する議題が出たときには職員の考えや意見を聞いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ユニット間で日々協力し合って取り組んでいる。職員それぞれの家庭の状況に合わせた働き方ができるように、職員同士が業務等も協力し合っている。事業所内研修、外部研修に積極的に参加している。その後、業務カンファレンス時に研修内容を報告して共有している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>自己・相互評価を行っている。研修実績、研修報告書の提出状況、ケアカンファレンス、業務カンファレンスの出席状況等把握し、頑張っている職員は評価している。希望休を認め、その人なりの働き方を認めている。(子供が小さい、夜勤はできない、等)</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>一人一人に合わせた研修、希望する研修を受けて研修報告書を提出。また、職員全員にケアカン、業カンなどで報告・勉強会を開くこともある。働きながらヘルパー、介護福祉士、ケアマネの資格取得を推奨している。内部研修も月1回程度で行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>他事業所の運営推進会議に出席している。橙園の運営推進会議の構成員にもなってもらっている。愛媛県地域密着型サービス協会、八幡浜地域密着型サービス連絡会議の研修を受け、報告書を書き、他職員にも伝えている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>事前面談をしっかり行っている。フェイスシートを記入しながら本人をよく知る。傾聴の姿勢で接し、不安なく生活していけると安心していただけるよう努めている。自分の気持ちを表せない方は、観察しながら向き合うことで思いや不安を汲み取るよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談をしっかりと行っている。家族が安心されるようこちら側の対応、方針などをきちんと説明していく。サービス計画書(1)で介護に対する意向をお聞きし、援助の方針をしっかりとお伝えし、プランについても納得していただけるよう説明している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前面談、フェイスシートで本人や家族の思いやADL、困っている事、要望などを知った上で、暫定プランを作成し、本人を観察しながらしっかり見極めていく。併設の小規模多機能型居宅介護の力も借りて対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「本人を介護される一方の立場におかない」ということは、カンファレンスや勉強会で話し合っている。一緒に食事を摂ったり、怒ったり、笑ったり、していくなかで、職員を信頼してもらって自然な関係性ができればと努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には気持ちよく過ごしていただけるよう配慮している。利用者の様子やエピソードなどもお伝えするよう心掛けている。毎月届けているお便りを通して家族との関係を築いていけるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前からかかりつけ医として信頼されていたDrと入居後もずっと関わられるよう対応している。 また、近くのなじみの神社での行事の御神楽やどんど焼き、輪抜けなどに参加している。 (外部評価) 利用者の知人の訪問があった時には、居間で一緒に過ごせるよう案内している。家族が隣接小規模多機能事業所を利用する日には一緒に過ごせるよう支援している。家族来訪時に、利用者が「帰りたい」と希望し、家族と一緒に自宅に帰って、気になっていた畑等の見て来た方がいる。本人は安心して事業所に戻って来たようだ。職員は家族に「利用者にもっとかかわってほしい」ことを話して、関係が途切れないような支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) とても仲の良い利用者同士、いつも一緒にソファで楽しそうにお話をしたり、レクやお手伝いも一緒にされている。発語の難しい方に優しく声をかけたり、不器用な男性利用者が「はよ食べんか」と心配されたり、こんな場面がたくさんできるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院の為退去されてもスタッフがお見舞いに行ったり、入院中の様子を家族からお電話で知らせていただいたりすることもある。退院後の相談を受けることが多い。他の施設へ移ったため退去となった方の家族からも同じように連絡をいただく。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 介護情報やフェイスシートで本人や家族の思い、願い、不安を知り、サービス計画書(1)で介護に対する意向を知り、利用者を日々観察しながらより深く思いや願いをスタッフ全員が知る努力をしている。 (外部評価) 入居時に、家族に聞き取りしてフェイスシートに利用者情報を整理しており、介護認定更新時に見直しを行っている。利用者個々について職員で話し合い、食事、排泄、具体的な支援方法を記述した日課表を作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居されるまでのことを家族から聞き取る。またサービス事業所を利用されていたら、そこからの情報を提供してもらい、フェイスシート、利用者情報記録を作成し、把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人に合わせた日課表を作成している。「毎日の記録」によりバイタル、食事、水分量、服薬、排泄、精神状態その他活動状況等すべてを記入する表にて把握している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>3ヶ月ごとに介護記録・本人観察によるモニタリングを実施しカンファレンスを行っている。スタッフ全員が参加して意見を出し合い、ケアプランの見直しをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、職員で話し合い介護度と病状に合わせて作成している。市からの指導をもとに、一人に一つできることをプランに取り上げて作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録にケアプラン、疾病、服薬が入れてあり、目標に沿った記録を取るようになっている。その記録を担当者が拾ってケアプランの見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の希望で家族に電話をかけてもらったたり、突然の外出にも対応している。食事時と訪問、面会が重なった時には居室で一緒に食べてもらったり、その時々で柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日赤奉仕団の三世代ふれあい運動会。近くの神社への初詣で、御神楽見学、どんど焼き。小学校の運動会等に参加。学芸会見学。文化祭に作品出展。公民館のバザー。公園にお花見。保育園児、小学生、中学生、ボランティアの訪問等、皆さんで支えてくださっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は利用者、家族の希望を大切に決めてい る。かかりつけ医との関係を築き、指示を守っている。受診は なるべく職員二人で対応している。	
			(外部評価) 管理者は、「病気を知らないケアできない」と考えており、 病気発症からの経緯や薬について解るように追跡調査を 行っている。受診は、看護職員が行っていたが、現在は、食 事・排泄・入浴との連携確認のために、介護職員も受診支援 を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師 等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受 診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 毎日の申し送り時、また、異常や変化がある時には、その都 度、看護職員に報告。看護職員は確認し、必要な処置をし たり、場合によっては受診することもある。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるように、病 院関係者との情報交換や相談に努めている。ま たは、そうした場合に備えて病院関係者との関 係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時はサマリー(入居から現在までの様子、服薬につい て、ADLの状態、注意事項などの情報)を提供している。入 院中も病院と情報交換に努めている。退院が決まったら、退 院前に医師、医療連携室看護師、家族とサービス担当者会 議を開催している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事 業所でできることを十分に説明しながら方針を 共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取 り組んでいる	(自己評価) 終末期(看取り)について入居時説明の時、家族の意向を確 認している。重度化した時、受診から往診へ、訪問看護の導 入など、段階、段階で家族と話し合いながら確認し合っ て決めている。	
			(外部評価) 医師が看取りの時期に入ったと判断した段階で、家族に看 取り支援についての希望を聞いている。家族は、「ここで最 後まで」と希望することが多く、方針を共有して支援に取り組 んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 何度か看取りも経験し、現在も看取りの方がおられる。ケアカンファレンスにて急変時の対応について話し合っている。「急変時の対応マニュアル」を壁に貼り、その時職員が冷静に対応でき、安心できるようにしている。事故発生時の対応、事故報告書の書き方などの勉強会も行った。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回以上避難訓練を行っている。消防署の協力もある。(日中、夜間それぞれ設定で行っている) 地域での原子力・津波災害の訓練にも利用者と一緒に参加している。 (外部評価) 6月の運営推進会議時に、隣接小規模多機能事業所と合同で火災想定避難訓練を行っている。地域で、津波想定避難訓練が行われた際には、地域の避難場所である公民館に利用者と一緒に避難した。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 橙園介護理念の中に、「一人ひとりの尊厳を守る介護」とあり、職員は理解していると思う。虐待や接遇の勉強会を何度か行い、職員の考えなどを書いてもらった。よく分かっているつもりだが、さらに言葉かけなどに注意していきたい。 (外部評価) 職員は、ゆっくりとわかりやすく、利用者に何をするのか伝えながら支援している。業務カンファレンス時には、理念にもある「尊厳を守る言葉かけを行う」ことを皆で申し合わせている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「1表」作成時、利用者本人に要望や希望を聞いている。発語のない方は本人の思いを汲み取っている。3か月ごとのプラン見直しのカンファレンス時、毎日の生活の中で要望や希望を確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人一人に合わせた日課表を作成している。その日受診だったり、入浴した後気持ちよくうとうとしたり、お天気の良い日は玄関先や園庭で日向ぼっこしたりしている。午前中はユニット内で体操や作業、午後からはボランティアさんのレクがある時は小規模多機能へ行ったりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝洗顔後、化粧水や乳液を付けている方もいる。美容師の免許を持つ職員が髪のカットをしたり、本人や家族の希望があれば毛染めやパーマもかけている。その日に着る服を職員と一緒に選んでいる方もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) カレーライスやハヤシライスが食べられない方はルーをかけないで別々に提供したり、その方の好みに合わせるよう心掛けている。職員も同じテーブルで一緒に食べている。食後は下膳やテーブル拭き、食器拭きなどを手伝ってもらっている。 (外部評価) 食材は、栄養士資格のある職員が注文し配達してもらっている。職員は、食べる楽しみについての外部研修を受講して、ミキサー食の利用者への支援について、目からも楽しめるように取り組んでいる。又、食前には口腔体操を行っている。調査訪問時、利用者は里芋の皮むきをしており、食後は下膳する方もいた。さらに、食事を楽しむという観点から職員のかかわり方についても、配慮や工夫できることがないか話し合ってみてはどうだろうか。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 自施設の栄養士が立てた献立で提供している。利用者一人一人に合わせて米飯をおにぎりにしたり、おかゆにしたり、副食をキザミ(大きさはその方に合わせる)にしたり工夫している。献立によってはミキサー食にして提供している人もいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) セッティングにて歯磨きできる方、仕上げ介助が必要な方、介助にて口腔ケアしている方など、義歯洗浄も含めて口腔ケアに努めている。嚥下に問題がある方が1名。歯科医による診察、指導が月1回。歯科衛生士による口腔マッサージを月2回行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導をしてパット汚染を減らし、気持ちよくトイレでの排泄ができるよう努力している。尿意、便意がわからなくてもトイレでの排泄が継続できるよう支援している。	
			(外部評価) 失禁がある方には、小まめに声かけてトイレ誘導を行っている。トイレで排泄できた時には、「よかったね」と一緒に喜ぶようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェックを毎日行い、申し送りにてその日の日勤者は便秘の人(排便なし3日目より)を把握するようにしている。水分補給をしっかり行ったり、冷たい牛乳を飲んでもらったり、散歩を勧めたりしている。(頑固な場合は頓服を服用する。)	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 寝る前の入浴は難しいが、午前がいい人、午後からがいい人と、その方に合わせて入浴している。入浴をいやがる方は、「ここのお風呂は温泉なんですよ」等、声掛けの工夫をしたり、トイレの時そのまま誘導するなどの工夫をしている。	
			(外部評価) ユニット間で入浴時間をずらし、両ユニットの職員で助け合いながら支援を行っている。現在、休業中のデイサービスの広い浴室を利用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) リビングのソファでうたた寝をされていたり、時には和室の畳の上でゴロリと横になったり、自分の居室に戻ってベッドの上で休んだりされている。車イスの方はその方のレベル、リズムに合わせてベッドに誘導している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 日々の介護記録にその人の疾病と、それに合わせた薬を示している。朝・昼・夕に服用した薬の名前を書いている。薬が変わった時や臨時薬が出た時には、申し送りをして、介護記録にも書き入れている。服薬についての勉強会もしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お手伝いをする事で自分が役に立っているなど張り合いを感じる方には、食器拭きや食事の下ごしらえをいただいたり、毎日、新聞を読んだり、日記をつけたり、「一人に一つできること」としてケアプランにも示して支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車椅子の方で自分の生家へ行きたいとの要望にて息子さんが連れて行ってくれたり、銀行や役所へ姪御さんと出かけたり、長男のお嫁さんが美容師さんで、お店でカットをしたり、欲しいものがある時など受診の時にお店に立ち寄ったり、職員が連れて行ったりして支援している。 (外部評価) 隣接する小規模多機能事業所に遊びに行くことが多い。地域行事に積極的に出かけている。小規模多機能事業所の裏の畑で作業をする利用者もいる。玄関の前に東屋があり、ひなたぼっこしたり、一休みしたりしている。	意思表示が難しい利用者も複数おり、個々の情報をもとにして懐かしい場所や思い出の場所等にも出かけてみてはどうだろうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 地域の行事やバザーに行ったり、ドライブに行った時など、利用者の財布にお金を入れて(千円程度)、自分の買いたい物や欲しい物が買えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分で電話をかけることが難しい方は、こちらでかけて話していただく。かかってきた時は受話器を耳に当てて話してもらおう。贈り物があった時はお礼状を出す支援をしたり、橙園で取れた伊予柑を家族に送る時はお手紙に近況などを書いて添える等の支援もしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングの中央に一段高くなっている和室があるので、そこに腰掛けて過ごしたり、和室に上がって利用者さん達のたくさん洗濯物を畳んでもらったりしている。和室には七段のひな人形を飾ったり、お正月飾りもする。リビングの隅にはクリスマス・ツリーや七夕飾りを置いて、季節ごとの飾りを楽しんでいる。</p> <p>(外部評価) 入り口には門松を、玄関には、水仙を生けていた。居間の一角に畳スペースがあり、調査訪問時には、洗濯物をたたむ利用者の様子が見られた。昼食後、ソファに座り、おしゃべりしながら過ごしていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 天気の良い日は玄関の長椅子に腰掛けて日向ぼっこをされている方もいる。リビングのソファでは仲良しの二人が楽しそうにおしゃべりをされている。リビング中央にある和室では腰掛けてくつろがれたり、畳に上がって寝転んで、そのうち眠られることもある。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室の壁一面に家族との写真が貼ってあったり、大好きなお孫さんの写真やかわいい絵や手紙があったり、動物の好きな方は猫や犬の絵を貼っていたり、家から持ってきたタンスや家具、置物などを居室に置いている方もいる。</p> <p>(外部評価) 家族来訪時に一緒に撮った写真を大きく引き伸ばして壁に貼っている。ボランティアに教えてもらって作った作品を貼ったり、花を生けている居室もあった。洋室・和室があり、利用者の状態や希望に合わせてベッドを置いている。又、畳に布団を敷いて休む方もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人一人のADLに合わせて床にベッド、あるいは畳にベッドになっている。ベッド柵もその方に合わせた位置に取り付けている。リビングの周り、廊下、トイレ、浴室のすべてに手すりがあり、各利用者に合わせた使い方をしている。</p>	